

前　言

問題の所在

第一部 景徳鎮窯業の展開

第一章 景徳鎮に官窯が置かれるに至る過程

27

第一節 景徳鎮発展史

27

第二節 景徳鎮の各代作風の推移

33

第三節 元代景德鎮「御土窯」——その「官窯」としての性格

35

第四節 景徳鎮湖田窯焼造の「権府手」碗に見る元代「官搭民焼」の傍証

45

第二章 景徳鎮官窯の成立

61

第一節 「官窯」の概念

62

第二節 元の景德鎮「浮梁磁局」

65

第三節 明初の景德鎮「官窯」をめぐる諸事情

67

第四節 宣徳期御器廠成立の意義

72

第三章 統制期の官窯の動向

77

第一節 明代前期景德鎮官窯磁器の規範

85

第二節 「部限瓷器」・「欽限瓷器」について

77

第四章 明代後期官搭民焼と御器廠の変質.....

第一節 官搭民焼の研究.....

101

第二節 官搭民焼の本格化時期と民窯吉祥文の影響.....

102

第三節 落選御用磁器処分方法の変遷から見た御器廠の変質.....

104

第二部 明代陶磁市場の発展段階と景德鎮窯業の関係

112

第一章 明代景德鎮民窯製品の国内流通について.....

125

第二章 明代龍泉窯業の展開について.....

139

第三章 明代の磁州窯について.....

157

第四章 明代福建における民窯とその活動.....

171

第五章 明代廣東地方の陶磁生産と陶磁市場について.....

189

第六章 その他の地方窯について.....

205

結語.....

217

初出一覧.....

238

史料一覧・参考文献一覧.....

240

図版・挿図・表一覧.....

253

あとがきにかえて.....

260

索引.....

276

英文要訳.....

278